

第1回全国ESD自治体会議参加報告

湊屋 稔
山崎 守

1. 全国ESD自治体会議・自治体フォーラムに参加して

羅臼町では、立教大学とのESD地域連携協定を結び、平成29年6月に対馬市・西伊豆町のESDの取り組みを聞く機会がありました。その際には、自治体（行政・教育）と地域・企業が協働で取り組む貴重な実践を、両市町から伺いました。対馬市からは域学連携による「対馬創生」を、西伊豆町からは産業（漁業）の衰退と人口減少の回避への「地域創生」の取り組みを聞くことができました。

今回は、1日目、初めて全国の11自治体の首長・教育長が一堂に会し、改めて、ESDに取り組む全国の市町の首長・教育長の熱い思いを聞くことができました。夕方からの意見交換会は有意義な情報が飛び交う盛会でした。2日目は、会場を変え、講演と全国でESDに取り組む11自治体の担当者からの実践発表と質疑を行いました。

これまで、羅臼町は立教大学ESD地域連携会議や全国で開催されるユネスコ活動・ユネスコスクールESD研究会の研修に参加してきましたが、まだまだ、ESDの考え方の理解と普及には時間がかかりそうです。全国の行政首長部局や教育長部局でも、職員を含む地域の研修不足は否めないと思います。今回の発表でも、地域全体ではなく、地区別の取り組みなどに留まり市町全体の取り組みまではまだまだであるという報告がありました。しかし、全国では、急速に企業のSDGsの取り組みが普及しはじめていますので、企業のSDGsの実践が学校のESDの推進へ繋がると思います。

さらに、学校教育では、平成32年度から始まる新学習指導要領の前文に「子どもたちが、豊かな人生を切り拓き、持続可能な未来社会の創り手となる」ことがはっきり示されました。ようやく、日本のこれまでにない新しい時代に必要な教育の転換が盛り込まれているのです。ESDの推進は、これから加速することになるでしょう。

2. 今後の羅臼町のESDの推進について

午後からの藻谷氏の講演「地域創生に不可欠なひとづくり」は、大変インパクトが強く、地域創生と教育の重要性に改めて気づくことができました。羅臼町の「Kプロジェクトの思い」と「持続可能な地域社会は、持続可能な学校から生まれる」ということを念頭に、子どもたちに「持続可能な未来社会の創り手となる」という、今後の20年間を見据え、予測不能な事柄が起きたときにしっかりと対処していける能力を身につけ、そういう社会を切り拓いていくような資質・能力を確実に育てていくことを目指したいと思います。

子どもたちに、郷土の歴史や自然への興味・関心を持たせ、教育的なねらいを明確にした体系的・系統的な体験をさせることは、豊かな心情や思考力を培い創造性を豊かにします。また、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターや立教大学ESD研究所と連携して持続可能な教育課程の編成や地域創生と人材育成を推進していきます。他自治体の取り組みを参考にしながら、改めて羅臼町のESD推進への課題を把握して今後の力としたいと思います。

(みなとや・みのる 羅臼町 町長)

(やまざき・まもる 羅臼町教育委員会 教育長)